総　論

第１章　「だいご未来ビジョン2027」とは

1　総合計画とは

総合計画とは、地方自治体が、将来どのようなまちを目指すのか、そのためにどのようなことに取り組むのかをまとめた計画です。

地方自治体が策定する計画は、分野ごとにたくさんありますが、総合計画は、こうした各種計画のうち、一番上に位置する「最上位計画」であり、最も重要な計画です。

全国のほとんどの地方自治体がこの総合計画を策定しており、本町においても、これまで６次にわたる総合計画を策定してきました。

2　計画策定の目的

本町は、令和２年度に「第６次大子町総合計画」を策定し、町の将来像を「魅力あるストーリーで　新しいまちの景色を創り　未来へつなぐ　ＤＡＩＧＯ」と定め、その達成に向けた様々な施策に取り組んできました。

少子高齢化が進む中、大規模災害の発生、新型コロナウイルス感染症の流行、デジタル技術の劇的な進歩など、これまでとは状況がまったく異なる予測困難な時代を迎えています。

これらに伴い、“安全・安心な暮らしの確保”を求める傾向が強まるなど、町民の意識も大きく変化してきています。

こうした時代の流れや町民の声に的確に対応し、将来にわたって魅力と活力のある大子町を築いていくため、「第６次大子町総合計画」の計画期間が終了することを機に、新たなまちづくりの指針として、「第７次大子町総合計画」を策定します。

なお、本計画が、多くの町民に親しまれ、積極的な参画・協働のもとに大子町の未来をつくっていくという想いを込め、計画の愛称を、「だいご未来ビジョン2027」と定めます。

3 計画の役割

町民みんなのまちづくりの共通目標

町民にとっては、本町の将来像や、その実現に向けた取り組みを行政と共有し、まちづくりに積極的に参画・協働していくための共通目標となるものです。

町行政の総合的な経営指針・主張

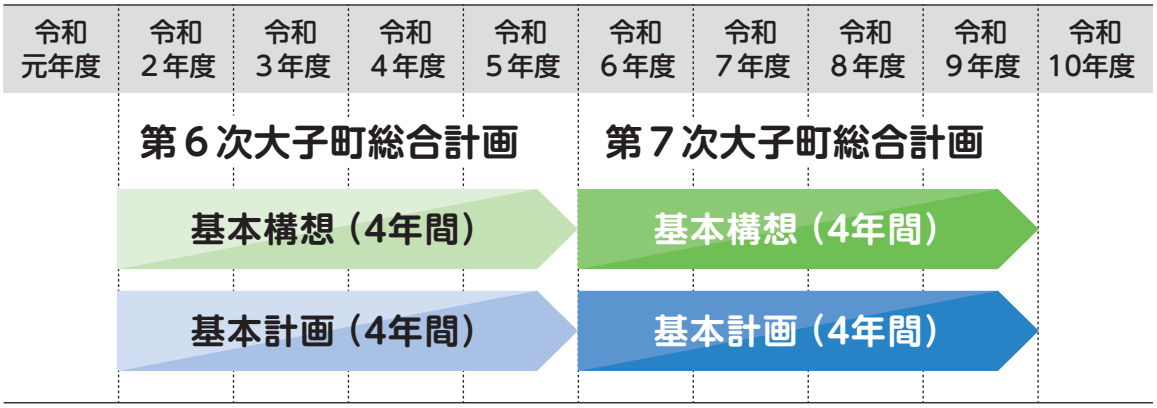
町行政にとっては、本町が将来にわたって持続的に発展していくための総合的な経営指針となるとともに、国や茨城県、周辺自治体に対し、本町の主張を示すものです。

4 計画の構成と期間

計画の構成

基本構想	本町が目指す将来像と、それを実現するための計画の体系や方針などを示したものです。
基本計画	基本構想に基づき、分野ごとに、今後行う取り組みや数値目標などを示したものです。

計画の期間



5 計画の特色

◆ “読んでわかる”計画

町民みんなのまちづくりの共通目標として、町民の声を計画に反映することを重視するとともに、町民目線に立ったシンプルでわかりやすい構成・内容・表現とし、“読んでわかる”計画として策定しました。

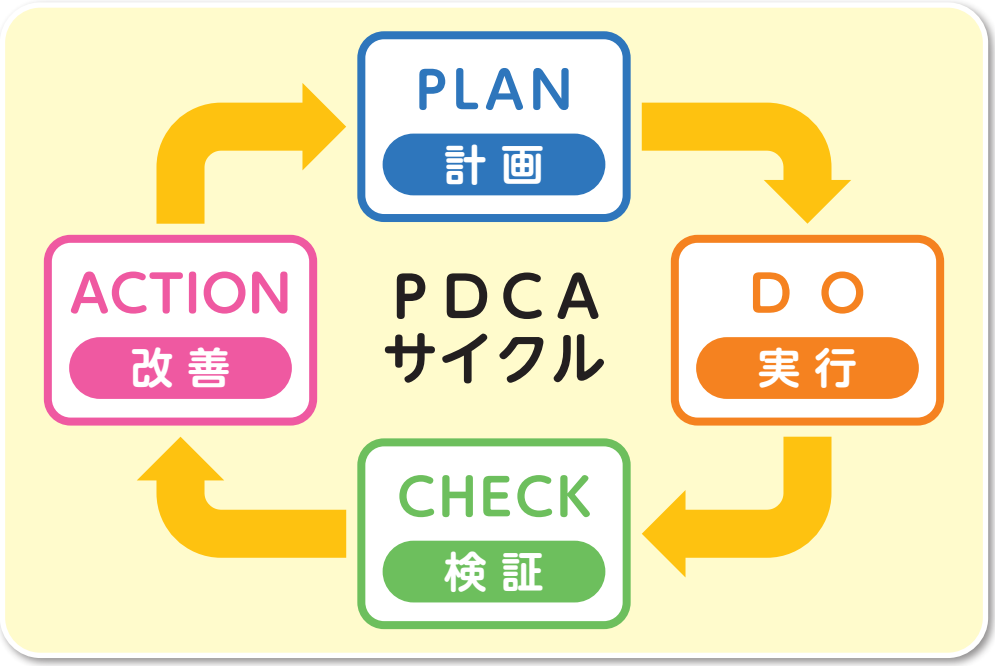
◆ “強み”を生かす計画

町民が愛着と誇りを持つまちづくり、町外の人が訪れたい・移り住みたいと思うまちづくりを進めるため、本町の特性・資源、いわゆる“強み”を再認識し、それを生かして大子町らしさを追求する、明るく前向きな計画として策定しました。

◆ “経営の効率化”につながる計画

町行政の総合的な経営指針として、行財政改革や行政評価と連動し、施策・事業の「選択と集中」、ＰＤＣＡサイクルの運用が容易に行える仕組みづくりなどを行い、“経営の効率化”につながる計画として策定しました。

ＰＤＣＡサイクル



第２章　大子町の特性と課題

1　大子町の概況

（１）位置と地勢

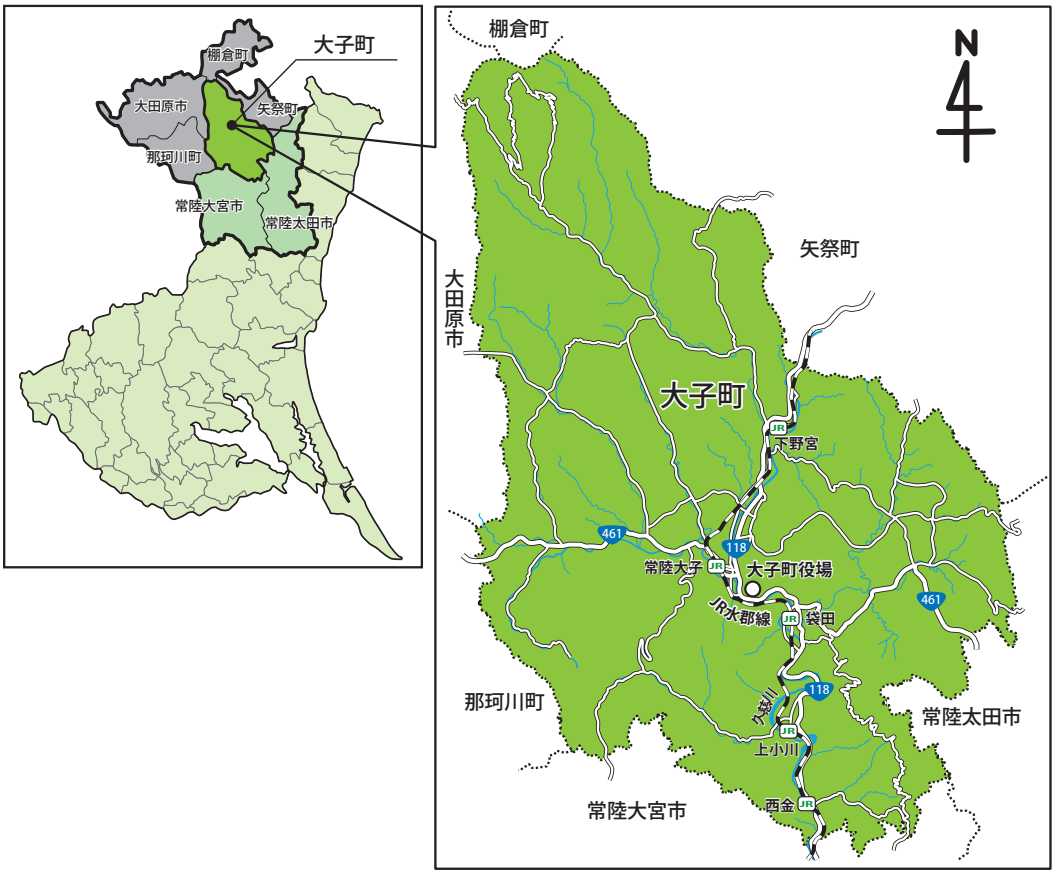
茨城県の最北西端に位置し、県下で３番目の広大な面積を持ち、約８割を山岳地が占める。

本町は、茨城県の最北西端に位置し、北から東にかけては福島県（棚倉町・矢祭町）と常陸太田市、南は常陸大宮市、西は栃木県（那珂川町・大田原市）と接しています。

東西19km、南北28km、総面積325.76㎢で、茨城県の44市町村のうち、３番目に大きい面積となっています。

総面積の約８割を八溝山系・阿武隈山系の山岳地が占め、山あいから流れる中小河川や、これらが注ぐ久慈川に沿って耕地が開け、集落が形成されています。

大子町の位置と概要



（２）人口

① 総人口

令和２年の国勢調査で15,736人。平成27年から令和２年までの５年間の減少率は県下で最も高い。

本町の総人口は15,736人（茨城県常住人口調査では令和５年10月１日現在14,435人）で、平成27年から令和2年までの５年間の減少率は12.8％と、これまでで最も高くなっています。

また、この５年間の減少率は、茨城県の44市町村の中で、最も高くなっています。

総人口と減少数・減少率の推移

	総人口（人）	減少数（人）	減少率（％）
平成12年	23,982	1,622	6.3
平成17年	22,103	1,879	7.8
平成22年	20,073	2,030	9.2
平成27年	18,053	2,020	10.1
令和２年	15,736	2,317	**12.8**

資料：国勢調査

県北地域における比較（減少率が低い順）

市町名	平成27年人口（人）	令和２年人口（人）	減少数（人）	減少率（％）
日立市	185,054	174,508	10,546	5.7
北茨城市	44,412	41,801	2,611	5.9
高萩市	29,638	27,699	1,939	6.5
常陸太田市	52,294	48,602	3,692	7.1
常陸大宮市	42,587	39,267	3,320	7.8
大子町	**18,053**	**15,736**	**2,317**	**12.8**

資料：国勢調査

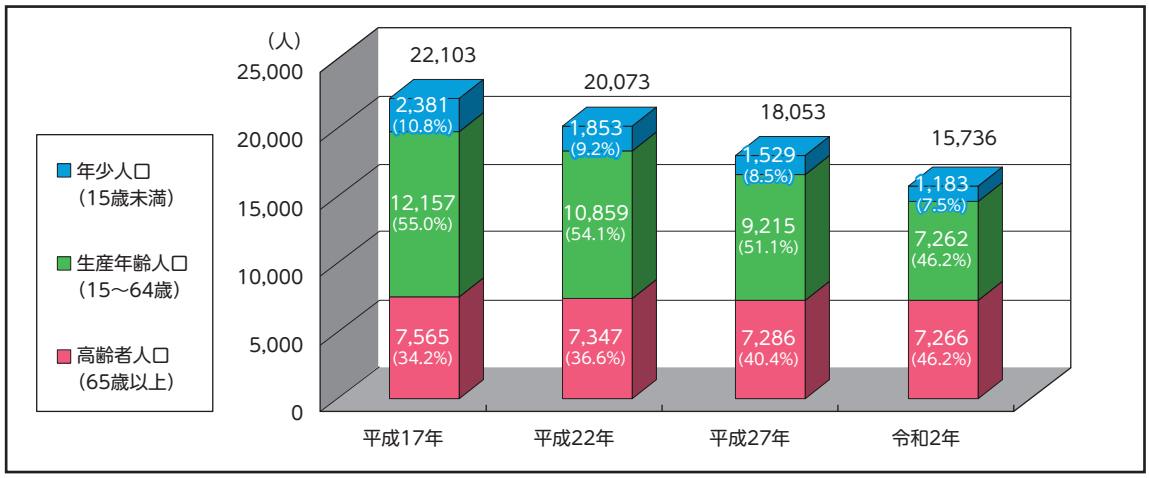
② 年齢別人口

年少人口の比率は県下で２番目に低く、高齢者人口の比率は県下で最も高く、少子高齢化が特に進んでいる。

年齢（３区分）別の人口（令和２年国勢調査）は次のとおりで、これまでの推移をみると、３区分ともに減少していますが、その比率をみると、15歳未満の年少人口比率と15～64歳の生産年齢人口比率が減少し、65歳以上の高齢者人口比率が増加しています。

また、令和２年の年少人口比率は全国・茨城県・県北地域平均を大幅に下回り、高齢者人口比率は全国・茨城県・県北地域平均を大幅に上回る状況にあるほか、茨城県の44市町村の中でみると、年少人口比率は２番目に低く、高齢者人口比率は最も高く、少子高齢化が特に進んでいることがわかります。

年齢別人口の推移



注）総人口には年齢不詳を含む（比率は年齢不詳を除いて産出）。　資料：国勢調査

年齢別人口比率の全国・茨城県・県北地域平均との比較（令和２年）

	全国	茨城県	県北地域	大子町
年少人口　（%）	12.1	11.9	9.8	7.5
生産年齢人口（%）	59.2	58.3	54.8	46.2
高齢者人口　（%）	28.7	29.9	35.3	46.2

注）比率は年齢不詳を除いて算出。　資料：国勢調査

③ 産業別就業者数

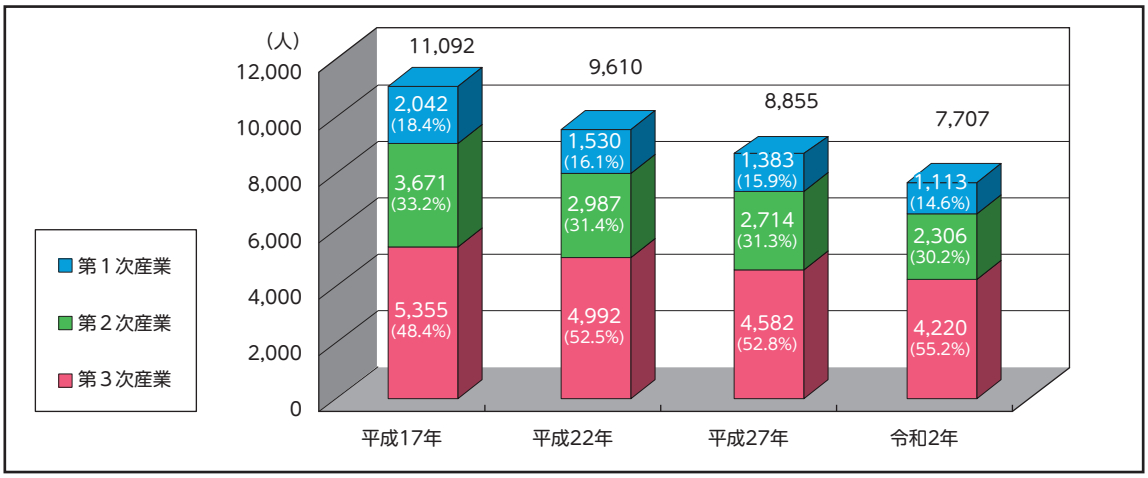
第１次産業就業者の比率は県下で５番目に高く、農林業が基幹産業の一つであることがあらためて認識される。

本町の就業者総数（令和２年国勢調査）は7,707人で、総人口の減少とともに急速に減少してきています。

産業（３部門）別の推移をみると、３部門ともに減少していますが、その比率をみると、農業・林業などの第１次産業就業者比率と、建設業・製造業などの第２次産業就業者比率が減少し、これら以外の第３次産業就業者比率が増加しています。

また、令和２年の第１次産業就業者比率は全国・茨城県・県北地域平均よりも大幅に高く、茨城県の44市町村の中でみると、５番目に高くなっており、農林業が本町の基幹産業の一つであることがあらためて認識されます。

産業別就業者数の推移



注）総人口には年齢不詳を含む（比率は年齢不詳を除いて算出）。　　資料：国勢調査

産業別就業者比率の国・茨城県・県北地域平均との比較（令和２年）

	全国	茨城県	県北地域	大子町
第１次産業　（%）	3.5	5.2	3.6	14.6
第２次産業　（%）	23.7	28.8	34.3	30.2
第３次産業　（%）	72.8	66.0	62.1	55.2

注）比率は分類不能を除いて算出。　　資料：国勢調査

2 生かすべき特性・資源

1 奥久慈の雄大で美しい自然環境・景観

本町は、茨城県最高峰の八溝山を擁する山あいの町で、美しい山並みと豊かな森、清流久慈川、日本三名瀑の一つである国名勝袋田の滝をはじめとする数多くの滝等、雄大で美しい自然環境・景観を誇ります。

本計画の策定にあたって実施したアンケート調査の結果においても、町の魅力をたずねた設問で、「自然が豊かである」が町民、中・高生ともに他を大きく引き離して第１位となっています。

国名勝袋田の滝

2 多彩で魅力ある観光・交流資源

本町は、「全方位、アウトドア。自然基地大子町」のキャッチフレーズのとおり、奥久慈の雄大で美しい自然を満喫できるスポットが町全域に広がっています。

また、道の駅奥久慈だいごや奥久慈温泉郷、大子広域公園、奥久慈茶の里公園、奥久慈憩いの森、大子温泉保養センター森林の温泉、大子おやき学校、映画やドラマのロケ地である旧上岡小学校、桜の名所、数多くのホテル・旅館、さらには常陸国ＹＯＳＡＫＯＩ祭りなどの祭り・イベント等、多彩で魅力ある観光・交流資源があります。

道の駅奥久慈だいご

3　おいしい特産品を生み出す特色ある農業

本町は、豊かな水資源や水はけのよい土地、昼夜の温度差が大きい気象条件等を生かし、古くから農業を基幹産業として発展してきました。

現在、コンテストで日本一を受賞するなど全国的に高い評価を得ている大子産米、奥久慈りんご、奥久慈茶、奥久慈大子こんにゃく、常陸大黒などの生産や、奥久慈しゃもなどの畜産が行われています。

これらの特産品は、大子町農産品ブランド「だいごみ」として認証され、その数は現在70以上にものぼります。

奥久慈りんご

4　充実した子育て・教育環境

本町では、妊産婦・出生から高校終了までの医療費、幼児教育・保育の無料化等の経済的支援をはじめ、保育サービスや放課後児童クラブ、子育て支援センター事業等の子育て支援サービスの提供、子育て世代包括支援センターの設置等による相談体制の充実など、笑顔と未来をつくる子育て支援のまちづくりに取り組み、充実した子育て環境を誇ります。

また、学校教育においても、学力の向上はもとより、英語教育やＩＣＴ※1 教育、「大子学のすすめ」による郷土学習、コミュニティ・スクール※2 等の、これからの社会を生き抜く「人財」の育成を見据えた教育内容・施設の充実に積極的に取り組み、充実した教育環境にあります。

子育て支援センター

※1　Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

※2　学校運営協議会制度。地域や学校の実情に応じて学校の運営に関して協議する学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりをしていくための仕組み。

5　安心して暮らせる保健・福祉環境

本町では、各種健診・がん検診や保健指導・健康教育をはじめ、町民一人ひとりを大切にした、きめ細かな保健サービスを提供しています。

特に、町民の自主的な健康づくり、運動習慣の定着に力を入れ、だいご健康づくりアドバイザー・シルバーリハビリ体操指導士の養成、健康教室・運動教室の開催、健康づくりポイント事業※3の推進など、着実に効果を上げています。

また、大子町社会福祉協議会等と連携し、高齢者の健康づくり・介護予防事業を積極的に実施するとともに、地域における見守り体制の強化や地域支え合いサービスセンター「さとも」事業※4による住民参加型の生活支援を進めるなど、支え合いながら健康で安心して暮らせる福祉環境にあります。

楽しいエクササイズ

6　やさしく人情味豊かな町民性

雄大で美しい自然や特色ある農業のまちとしての歩みなどによって古くから培われてきた町民のやさしさや人情味の豊かさ、人と人とのつながりの強さは、多くの人々が認める“大子町のよさ”となっており、今後のまちづくりに生かすべき本町の優れた特性・資源の一つといえます。

※3　健康づくりに関する事業への参加や取り組みでポイントが貯まり、記念品と交換することができる事業。

※4　地域で生活する高齢者や障がい者等で「ちょっと手を借りたい」と思っている人(利用会員)を対象に、協力会員が自宅に訪問し、お手伝いする非営利な有償による住民参加型サービス。

7　着実に進む未来への基盤づくり

本町では、国道118号袋田バイパスが完成し、国道461号の橋の架け替え・拡幅も着々と進められているほか、ＡＩ※5乗合タクシーの運行を開始するなど、道路・交通環境の整備が進みつつあります。

また、ＡＩ乗合タクシーの運行はもとより、スマート農林業※6やデジタル介護への支援、行政事務における生成型ＡＩ※7の導入検討など、デジタル化への積極的な取り組みを進めています。

さらに、「大子まちなかビジョン」等に基づき、災害に強いまちづくり、にぎわいのあるまちづくりに向け、新庁舎を建設したほか、今後も、旧役場庁舎跡地の利活用をはじめ、中心市街地及び周辺の一体的な整備を計画しています。

このように本町は、未来への基盤づくりが着実に進みつつあり、さらなる発展が期待されます。

AI乗合タクシー「たくまる」

ドローンによる苗木運搬

※5　Artificial Intelligenceの略。人工知能。
※6　ロボット技術など先端技術を活用し、省力化や高品質生産等を可能にする新たな農林業。
※7　質問に対する回答などの文章作成や、さらに精度が高い対話ができるＡＩ。

3 対応すべき時代の流れ

1 さらに高まる安全・安心への意識

全国各地における地震や大雨等による大規模な自然災害の発生、新型コロナウイルス感染症の流行、オレオレ詐欺などの特殊詐欺や悪質商法による被害の増加、子どもを巻き込む痛ましい交通事故の発生等を背景に、人々の安全・安心に対する意識がこれまで以上に高まってきています。

2 加速する少子高齢化・人口減少

わが国では、未婚化・晩婚化の進行等により、出生数が年々減少し、少子化がさらに進むとともに、高齢化も世界に類をみないスピードで進み、今後もさらに進むことが見込まれています。

また、少子化等に伴い人口減少も加速してきており、人口減少の克服・地方創生※8 が引き続き大きな課題となっています。

3 厳しさを増す地方の産業・経済と雇用情勢

人口減少の進行による担い手不足の深刻化、新型コロナウイルス感染症の流行、地域間競争の激化等を背景に、耕作放棄地の増加や森林の荒廃、既存商店街の空洞化、企業立地の停滞等の状況がみられ、地方の産業・経済をめぐる情勢は厳しさを増しており、地域全体の活力の低下や雇用情勢の悪化が大きな問題となっています。

※8　人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口集中を是正し、将来にわたって活力と魅力ある地方をつくり出すこと。

4　求められる脱炭素社会の実現

地球温暖化が一層深刻化し、異常気象や生態系の変化をはじめ、人間の生活や自然環境に様々な影響を与え、世界各国でその対策が進められています。

わが国においても、「2050カーボンニュートラル※9」を宣言し、令和32年までに脱炭素社会を実現する目標を掲げており、地方自治体においても、これを踏まえた取り組みが求められています。

5　重要性を増す共生社会づくり

家族形態の変化や価値観の多様化等を背景に、近所づきあいの希薄化やコミュニティの弱体化が懸念されています。

しかし、少子高齢化が進む中、また大規模な自然災害が相次いで発生する中、地域で支え合いながら、ともに生きる社会づくりやコミュニティ活動の重要性が再認識されてきています。

6　急速に進むデジタル化による社会の変革

様々な情報通信機器・サービスの普及により、誰もが様々な情報を瞬時に受発信できる環境が実現しました。

また、民間企業や地方自治体におけるＤＸ※10が進められ、ＡＩやロボットなども生活に身近なものとなるなど、デジタル化による社会の変革が急速に進むとともに、デジタルの力を活用し、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせるまちづくりが求められています。

※9　主として人間の活動によって排出される二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量と、森林や植物が吸収する温室効果ガスの吸収量が等しくなること。

※10　Digital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）の略。デジタル技術を活用し、製品やサービス、ビジネスモデル、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土等を変革すること。

7　求められる地方の自立と住民参画・協働

地方自治をめぐる情勢が大きく変化する中、これからの地方自治体には、住民や住民団体、民間企業等の地域における多様な主体の参画・協働を促しながら、自らの地域の未来を自らが決め、具体的な取り組みを実行していく力、「自立力」を、これまで以上に強めていくことが求められます。

8　広がるＳＤＧｓの達成に向けた取り組み

平成27年の国連サミットで世界の共通目標として採択されたＳＤＧｓ※11の達成に向けて、各国で様々な取り組みが広がっています。

わが国においても、持続可能な開発目標推進本部を設置し、積極的な取り組みを進めており、地方自治体においても、こうした動きを踏まえた行政運営が求められます。

ＳＤＧｓの17の目標

資料：国際連合広報センターホームページ

※11　Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。国連加盟193か国が2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた目標で、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている。

4 反映すべき町民の声

本町では、本計画に町民の声を十分に反映させるため、町民及び中・高生を対象としたアンケート調査を行いました。

主な結果を抜粋すると、次のとおりです。

アンケート調査の概要

	町民アンケート調査	中・高生アンケート調査
調査対象	18歳以上の町民	町立中学校４校と県立大子清流高等学校の生徒全員
配布数	1,800	398
抽出法等	無作為抽出	全数調査
調査方法	郵送による配布・回収	各学校での配布・回収
調査時期	令和５年５月	令和５年５月
有効回収数	730	379
有効回収率	40.6%	95.2%

① 町への愛着度と今後の定住意向（町民、中・高生）

■町への愛着度

【町　　民】“愛着を感じている”　76.7%

【中・高生】“愛着を感じている”　68.3%

■今後の定住意向

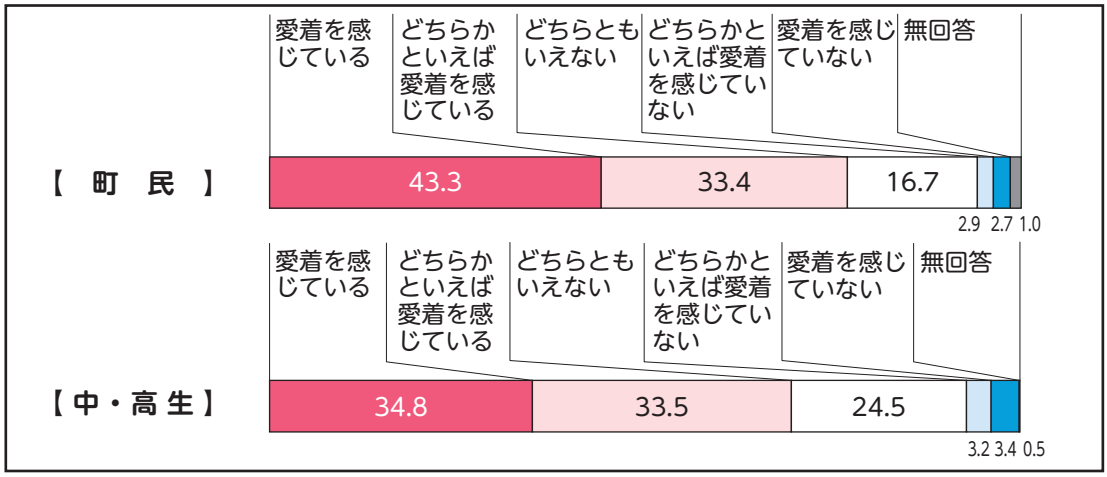
【町　　民】“住みたい”　71.3%

【中・高生】“住みたい”　24.6%

町への愛着度については、上記のとおりで、町民は約８割、中・高生は約７割の人が本町に“愛着を感じている”と答えており、愛着度は高いといえます。しかし、今後の定住意向については、中・高生で目立って低く、「町に愛着は感じているが、住みたいとは思わない」という中・高生がかなり存在すると考えられます。

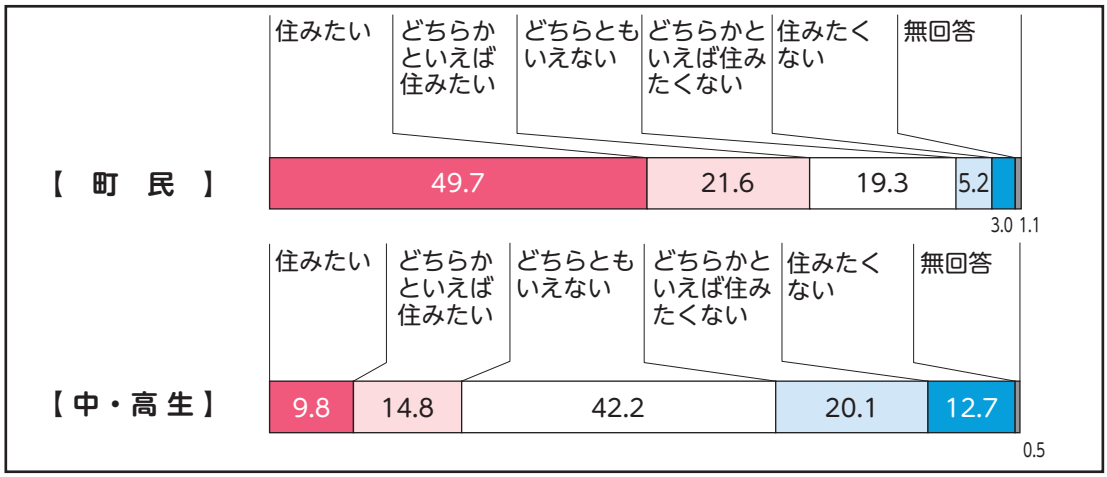
町への愛着度（町民、中・高生）

（単位：%）



今後の定住意向（町民、中・高生）

（単位：%）



② 町の各環境に関する満足度（町民）

■満足度が高い項目

第１位　水道の整備状況
第２位　消防・救急体制
第３位　ごみ処理体制
第４位　保健サービス提供体制
第５位　交通安全体制

■満足度が低い項目

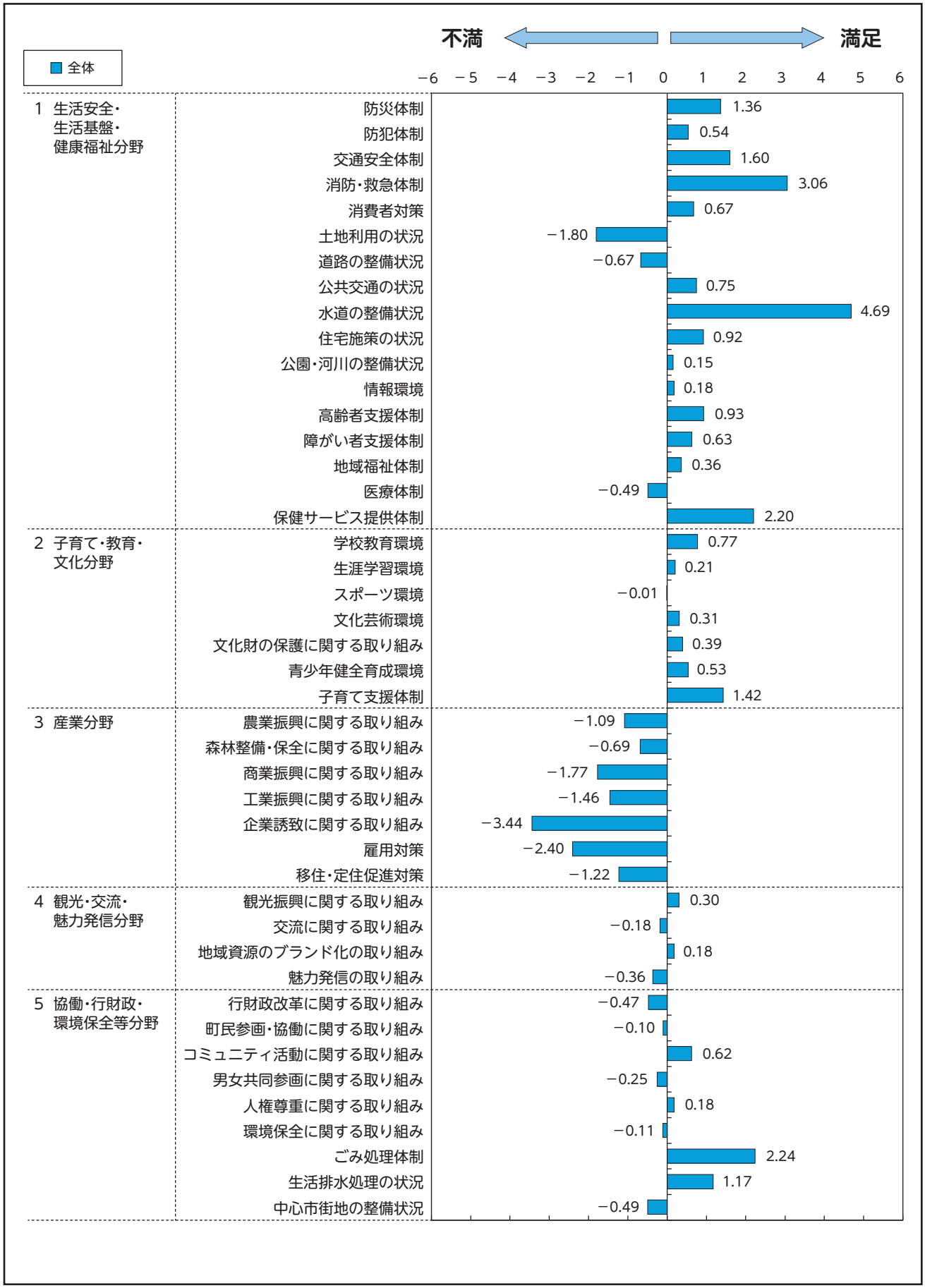
第１位　企業誘致に関する取り組み
第２位　雇用対策
第３位　土地利用の状況
第４位　商業振興に関する取り組み
第５位　工業振興に関する取り組み

町の各環境に関する満足度（５分野44項目を設定し、項目ごとに５段階で評価してもらい点数化）は、上記のとおりとなりました。

水道や消防・救急をはじめ、生活安全・生活基盤・健康福祉分野と、子育て・教育・文化分野の満足度が高く、一方、企業誘致や雇用対策をはじめとする産業分野全般と、土地利用、道路、医療、中心市街地などに関する満足度が低く、これらに課題を残しているといえます。

町の各環境に関する満足度（町民）

（単位：評価点）



③ 町の各環境に関する重要度（町民）

■重要度が高い項目

第１位　水道の整備状況
第２位　医療体制
第３位　消防・救急体制
第４位　ごみ処理体制
第５位　防災体制
第６位　道路の整備状況
第７位　企業誘致に関する取り組み
第８位　防犯体制
第８位　高齢者支援体制（同点）
第10位　子育て支援体制

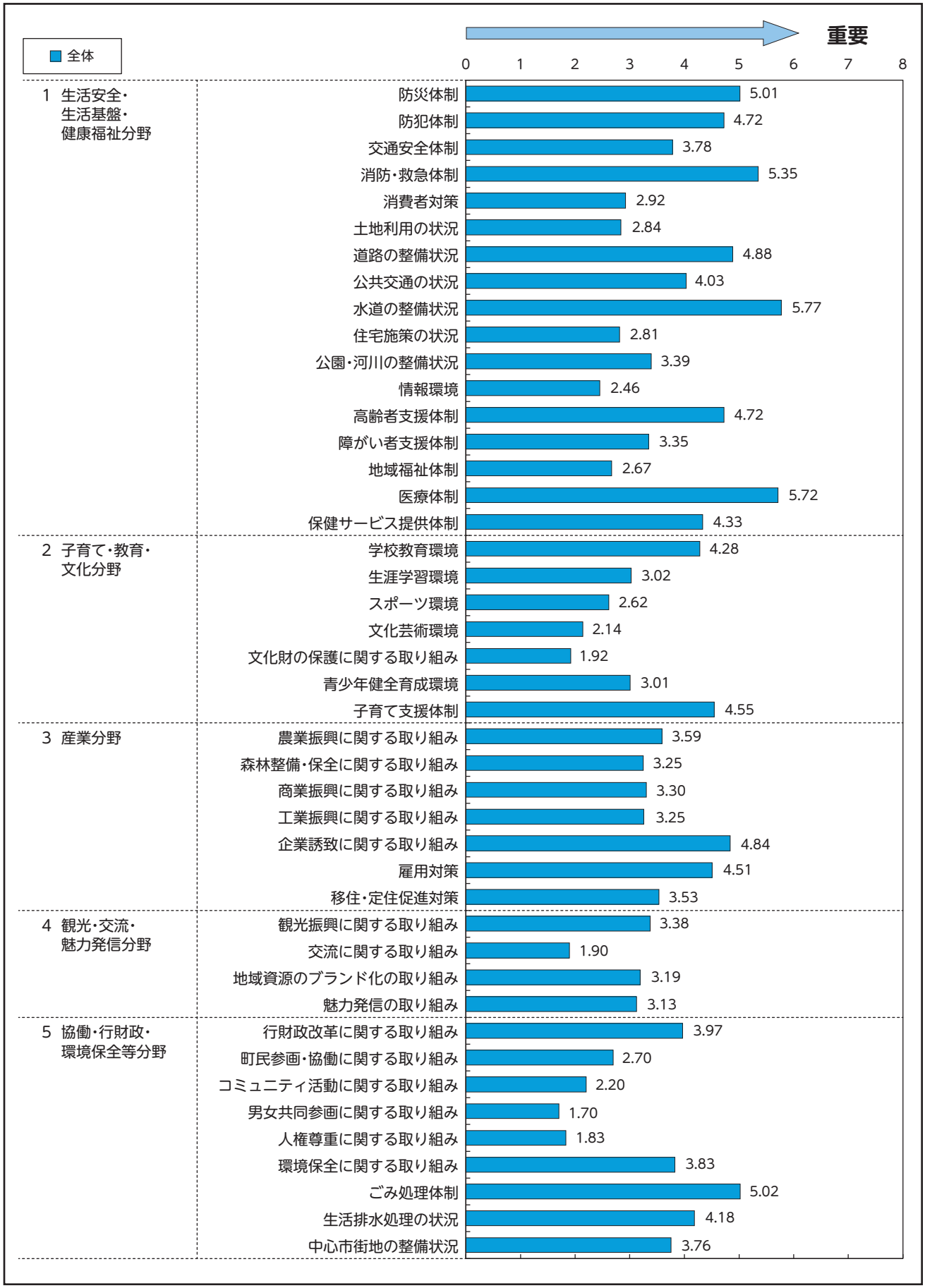
町の各環境に関する重要度（５分野44項目を設定し、項目ごとに、今後重要かどうかを５段階で評価してもらい点数化）は、上記のとおりとなりました。

これら上位10項目をみると、生活安全・生活基盤・健康福祉分野の項目が７項目、子育て・教育・文化分野の項目が１項目、産業分野の項目が１項目、協働・行財政・環境保全等分野の項目が１項目で、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”が重視されていることがうかがえます。

水道施設の整備

町の各環境に関する重要度（町民）

（単位：評価点）



④ 今後のまちづくりの特色（町民、中・高生）

■今後のまちづくりの特色

【町　　民】

第１位　安全・安心のまち

第２位　健康・福祉のまち

第３位　商工業のまち

【中・高生】

第１位　安全・安心のまち

第２位　観光・交流のまち

第３位　快適住環境のまち

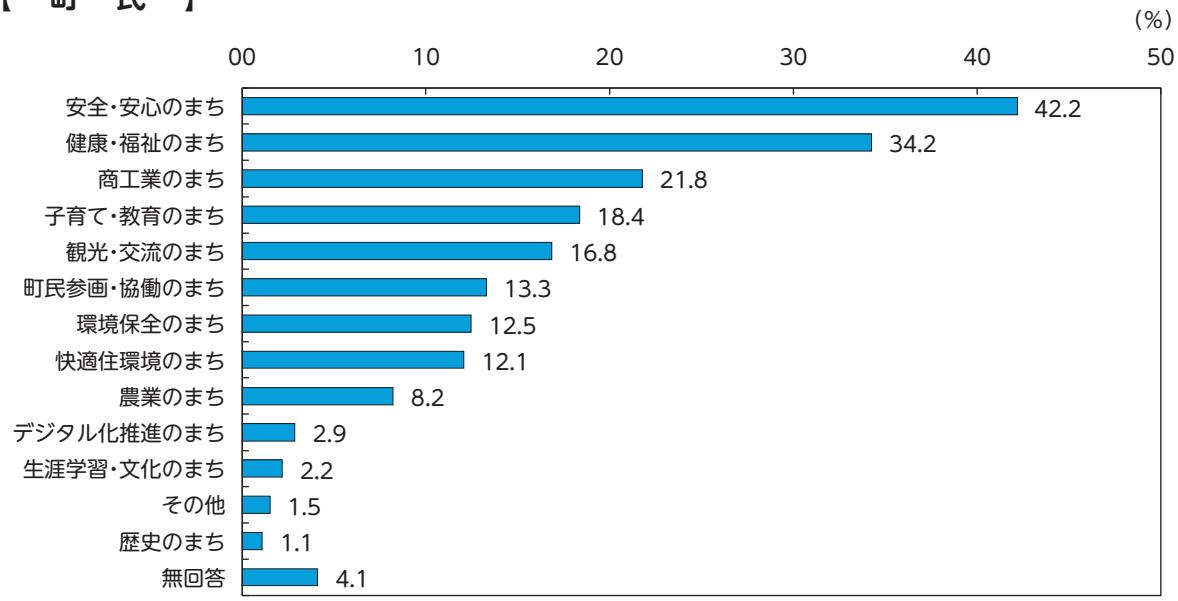
今後のまちづくりの特色については、上記のとおりで、町民では、「町の各環境に関する重要度」の結果を裏づけるように、「安全・安心のまち」が第１位、「健康・福祉のまち」が第２位で、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”が強く求められているほか、第３位は「商工業のまち」で、“商工業の活性化”も望まれています。

中・高生では、町民と同様に、「安全・安心のまち」が第１位で、“安全・安心な暮らしの確保”が強く求められていますが、第２位以下をみると、「観光・交流のまち」、「快適住環境のまち」と続いており、“多くの人々が訪れるまちづくり”や“快適な生活環境の整備”も望まれています。

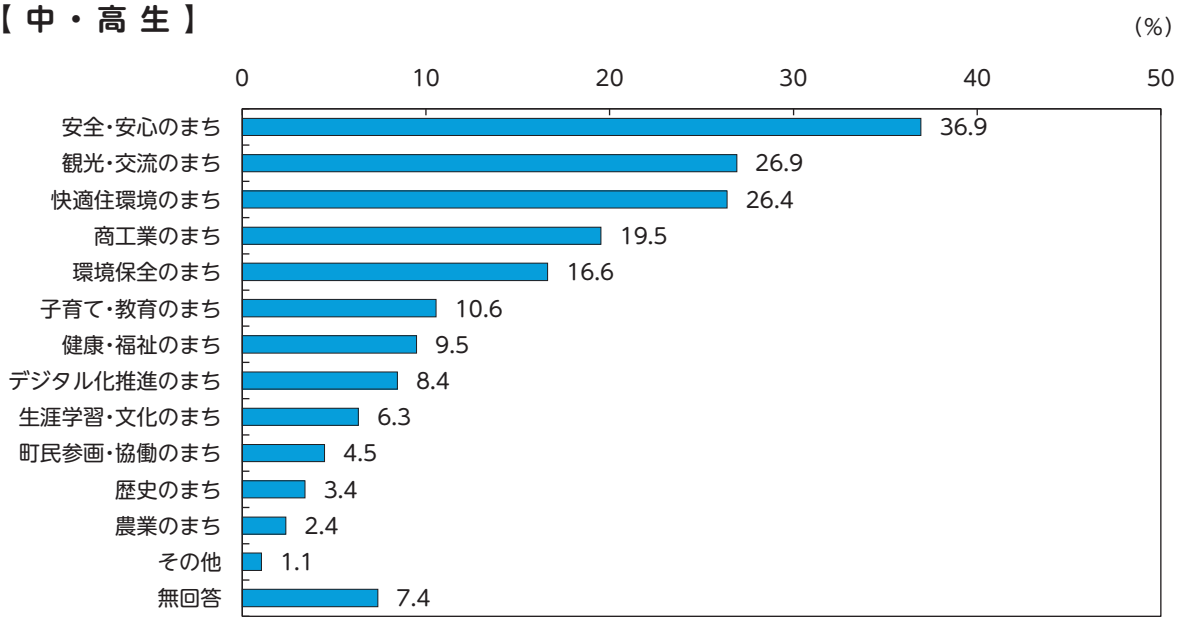
なお、町民の結果を年齢別でみたところ、ほとんどの年代で「安全・安心のまち」が第１位となっていますが、30代と50代では「健康・福祉のまち」、40代では「子育て・教育のまち」が第１位という結果でした。

今後のまちづくりの特色（町民・中学生）

【　町　民　】



【中・高生】



5 大子町発展への主要課題

（1）最重要課題

人口減少問題への対応

人口減少が急速に進み、すべての分野で担い手が不足し、町全体の活力の低下が懸念される中、本町が持続的に発展していくための最重要課題は、「人口減少問題への対応」です。

人口減少を抑制するためには、生まれる子どもを増やし、亡くなる人を減らすこと（自然減対策）と、町に移住してくる人を増やし、町を出ていく人を減らすこと（社会減対策）の両方を同時に進めていかなければなりません。

また、一方では、人口減少が進んだ社会を想定し、それに適応するまちづくりを考えていくことも必要です。

そのためには、特定の分野や特定の取り組みだけではなく、様々な分野における様々な取り組みをトータルで進め、本町の魅力や住みやすさ、豊かさを総合的に高めていく必要があります。

（2）分野別の主要課題

1 自然と共生する安全・安心・快適な生活環境の整備

人々の安全・安心への意識がさらに高まる中、本町においても、“安全・安心な暮らしの確保”を求める声が強く、「安全・安心のまち」が町民、中・高生ともに今後のまちづくりの特色の第１位となっています。

また、脱炭素社会の実現が求められる中、「ゼロカーボンシティ」を宣言した町として、具体的な環境保全の取り組みが求められています。

このため、自然災害をはじめとするあらゆる危機への備えを強化するとともに、雄大で美しい自然が息づく町として、資源・エネルギーの循環を基本とした環境保全施策を推進し、誰もが住みたくなる、安全・安心・快適な生活環境の整備を進めていく必要があります。

2　町民が生涯活躍できる健康・長寿のまちづくり

全国的に高齢化が進む中、本町の高齢化率は県下で最も高く、すでに総人口の半数弱が高齢者となっています。

このような中、“保健・医療・福祉の充実”を求める町民の声が強く、「健康・福祉のまち」が今後のまちづくりの特色の第２位（30代と50代では第１位）となっています。

このため、充実した保健・福祉環境や、人情味豊かな町民性等をさらに生かしながら、地域に密着した保健・医療体制、福祉・介護体制の充実を図り、すべての町民が生涯にわたって活躍し、いきいきと暮らすことができる、健康・長寿のまちづくりを進めていく必要があります。

3　観光・交流と農林業を柱とした活力ある産業の育成

地方の産業・経済が厳しさを増す中、本町においても、各産業をめぐる情勢は厳しく、産業分野全般に関する町民の満足度が低くなっています。また、“商工業の活性化”を求める町民の声が強く、「商工業のまち」が今後のまちづくりの特色の第３位となっているほか、中・高生では、“多くの人が訪れるまちづくり”を望む声が強く、「観光・交流のまち」が今後のまちづくりの特色の第２位となっています。

このため、多彩で魅力ある観光・交流資源や特色ある農林業のまちとしての特性等をさらに生かしながら、観光・交流と農林業を柱とした活力ある産業の育成を進めていく必要があります。

りんご風呂

グリンヴィラ

4　子育て支援の充実と特色ある教育・文化行政の推進

全国的に少子化が進む中、本町では、年少人口の比率が県下で２番目に低く、子どもの数が特に少なくなってきています。

このような中、“子育て・教育環境の充実”を求める町民の声が強く、「子育て・教育のまち」が今後のまちづくりの特色の第４位（40代では第１位）となっています。

このため、充実した子育て・教育環境等をさらに生かしながら、若い世代が子育てに夢を持ち、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを一層進めていくとともに、地域に根差した特色ある学校教育の推進、町民主体の学習活動や文化活動・スポーツ活動の活発化を進めていく必要があります。

水戸ホーリーホック市町村の日に
参加する子どもたち

5　町の持続的発展を支える都市基盤の整備

人口減少を抑制するとともに、人口減少社会に適応し、今後も本町が持続的に発展するためには、これまでみてきた生活環境の整備や保健・医療・福祉の充実、産業の育成、子育て・教育環境の充実はもとより、これらを支える便利で安全な都市基盤の整備が必要です。

このため、未来への基盤づくりが着実に進みつつある本町においても、主要都市へのアクセスの向上や町民の利便性・安全性の向上、そして町全体の活性化を見据えながら、計画的な土地利用・市街地整備をはじめ、道路網の整備や公共交通の充実、住環境の整備、デジタル化の一層の推進など、町の持続的発展を支える都市基盤の整備をさらに進めていく必要があります。

6　多様な主体の力の結集と自治体経営のさらなる効率化

地方の「自立力」の強化が求められる中、限られた財源を有効に活用し、活力と魅力あふれる自立した大子町をつくり上げ、将来にわたって持続させていくためには、地域における多様な主体の力を結集するとともに、自治体経営のさらなる効率化を進めていくことが必要です。

このため、人情味豊かな町民性等をさらに生かしながら、町民や町民団体、民間企業、大学等の参画・協働体制を強化し、多くの主体の力を結集したまちづくりを進めていくとともに、さらなる行財政改革を推進し、自治体経営の効率化を進めていく必要があります。

大子町役場